

第10回日本理学療法教育学会学術大会 (第56回日本理学療法学会学術大会)

理学療法教育
2022, 1(1), 53
©2022 日本理学療法教育学会
<http://jspt.japanpt.or.jp/jspte/>

(日本地域理学療法学会, 日本支援工学理学療法学会, 日本理学療法教育学会,
日本理学療法管理研究会 合同学術大会2021として開催)

開催日時/2021年12月4日(土)・5日(日)

開催方法/オンライン開催

テーマ/理学療法教育の進化 ~未来のカタチを求めて~

学術大会長/松本 泉(株式会社シーユーシー)

この度は、第10回日本理学療法教育学会学術大会の開催にあたりご登壇いただきました講師、座長、演者の方々に心より感謝申し上げます。また、ご準備に携わっていただきました準備委員の皆様にも深く感謝申し上げます。

本学術大会においては、演題募集に52件の応募をいただき40件を採択としました。COVID-19により理学療法教育に変化をもたらしている内容について多くのご発表をいただき、養成校の様々な取り組みや卒後教育の取り組みについて皆様の日々の研究活動がこの変化の中でも新しい視点を持ちそれぞれの現場で進められていることが見られたのではないのでしょうか。また、特別講演をいただきました順天堂大学 武田裕子先生の「教育論文執筆のポイント」では理学療法教育における研究の礎ともなるご内容を査読の視点からわかりやすくご教授いただきこれから論文へ取り組まれる方、取り組んでいらっしゃる方へ大きな学びとなったのではないかと思います。

シンポジウムについては合同開催というメリットを生かし、日本理学療法管理研究会と合同シンポジウムとして2つのシンポジウムを開催することができました。

「COVID-19の影響下における卒前教育・卒後育成の現状と課題」をテーマとしたシンポジウムでは、教育の立場から兵庫医療大学 日高正巳先生、熊本総合医療リハビリテーション学院 池田耕治先生、臨床現場の立場から大分大学医学部附属病院 井上仁先生、独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院 山崎隆幸先生にご登壇いただきCOVID-19がもたらした変化を次への変改としてそれぞれの立場で進めていらっしゃる事をご発言いただきました。大きな変化が次への進化へとつながっていると実感できこれからの理学療法教育の次へのステップをご発言いただいと感じました。

もう一つの合同シンポジウムにおいては「理学療法士の需給推計を受けて、我々はこれから何をなすべきか?」と

いうこれからの理学療法の未来について考えるテーマとし、公益社団法人日本理学療法士協会の立場から佐々木嘉光先生、卒前教育の現場から杏林大学 門馬博先生、臨床の現場から適寿リハビリテーション病院 栄健一郎先生、神戸市立医療センター中央市民病院 岩田健太郎先生にご登壇いただきました。テーマとしてこれから理学療法教育として理学療法士として職域や専門性の追求することを考える時間となったのではないかと思います。

シンポジウムは「多職種連携」をテーマとし、多職種連携教育にそれぞれのお立場で携わって進めていらっしゃる内容をご紹介いただきました。「卒前・卒後の多職種連携教育と多職種連携」花の丘病院 木村圭佑先生、「行政連携と多職種連携を意識した総合事業と地域ケア個別会議による地域包括ケアへの取り組み」藤田医科大学 都築晃先生、「学生多職種連携教育プロジェクト「とやまいびー」の挑戦」富山市まちなか診療所 三浦太郎先生3名のご発言で多職種連携教育の重要性、必要性を改めて感じ、これから多職種連携教育への取り組みのお手本とさせていただきますと思いました。

最後のセッションでは「理学療法士養成教育における卒前教育の在り方—臨床実習指導者の指導観調査から—」をテーマとし、理学療法教育学会の取り組んだ教育学会研究報告会を行わせていただきました。

今回、4団体合同開催を開催することで一つの分野だけではなく幅広い理学療法研究・実践分野の知識を得ることができる演題、講演等が展開されたことで参加者の皆さまへ幅広い学びの機会を提供できたのではないかと思います。第10回日本理学療法教育学会への参加を期に多くの理学療法士の方が研究、論文への学術的知見を広めていただい、理学療法教育の進化に向けて邁進されることを心より祈念しております。